



情報リテラシー

あつという間に寒いくらいの秋風に吹かれる季節となりました。中3はいよいよ受験まっしぐら、とはいうものの社会などはまだ「公民」の教科書に入ったばかりという中学もあります。どの科目の教科書も改訂の度に少しずつ新しい内容が加わっているのですが、公民については急にカタカナ語が増えています。グローバル化、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン、オンブズパーソンなどが太字の重要語句として並んでいるのを見てびっくりされた保護者の方も多いのではないでしょうか。その中でも「情報リテラシー」という用語は、現代を生きる生徒たちの生活に直接かかわってくるものです。だからこそ中3だけでなく、小学校高学年のうちから周りの大人も一緒になって考えていきたいですね。ただし、ついデジタル機器を使いこなす能力みたいなイメージでとらえられてしまいがち。それだけではないということを確認しましょう。ある情報を得るためにどんな情報媒体を使うのか判断できる、より信頼できるのはどれなのかを他の情報と比較できる、得た情報を理解できる、そしてそこから正しい判断をするというような力です。例えば最近激しく日本を襲う台風が近づいて来た時、テレビやスマホからどう正確な情報を得て、それらの情報から重要なものを選択し、今いる場所ですべき対応をきちんと判断することができるということが大事です。情報には文章もあればグラフなどの資料もあり、さらに映像や音声もあります。それらのうちの一つだけに頼り切るのではなく複数の情報を比べてみることもリテラシーの一つです。

さて入試についての情報リテラシーも考えてみましょう。ネットで調べた高校入試の偏差値は本当に参考になるのでしょうか？まず偏差値の正しい理解が必要です。同じテストを受けた母集団のなかで平均からどれだけの位置にいるかを統計的に表したのが偏差値です。本人が受けたテスト業者のサイトで確認したのなら参考になります。しかし、出典が明らかでないサイトのものはそもそも母集団がわからないのですから意味がありません。ご用心を！